平成30年度エルムズ大学長期留学最終報告書

文化学部文化学科3回生　山本悠

私は、2018年8月末から2019年5月までマチューセッツ州にあるエルムズ大学に留学をし、この9か月間で様々なことを経験し、学び、得てきました。ここでは、私がアメリカに留学しようと思った理由及び、アメリカで過ごした日々について述べます。

まず、私がエルムズ大学に留学しようと思った理由は、アメリカの文化に直接触れ、日本の文化とどう違うかを学ぶこと、さらにアメリカでの生活を通して生の英語を学ぶことでした。日本に留まっていては、上記のことを自分が目指すレベルのものまでは得ることができないと考え、思い切って留学という選択を選びました。実際に、9か月間の留学期間を経て、成長した部分や、達成できたことがあると感じます。

私は、春と秋の2学期間に英語を母国語としない学生が英語を学ぶESL, 社会学の基礎を学ぶIntro to society, 様々な美術活動に取り組むArt, 物語を通して他者の考えや価値観を学ぶ First year seminar, 周りの環境が人間の行動に与える影響を学ぶ Human behavior, 日本のアニメーションや漫画を通して西洋と東洋の文化や物事の捉え方の違いを比較するEast West collaboration, の授業を受講しました。どの授業にも共通して言えることは、予習と課題の量が非常に多いことです。特に、頻繁に課されるレポート提出は、分量もテーマも大変難しく、毎回書き終えるのに時間と労力を要しました。Human behaviorでは、「ある社会システムについてミクロ、マイクロ、マクロの視点から考察し、それらが個人や社会にどのような影響を与えているのかを例を挙げて10ページ以上の論文を作成しなさい」という課題が出ました。このレポートは自分が経験した中で一番複雑で難しかったもので、完成させるのに1か月以上かかりました。しかし、このようなレポートをこなすうちに英語で文章を書く力は想像以上に身についたと感じます。また、友達にレポートを添削してもらったり、先生に助けを求たりして書き上げたものは全て、私にとっては成長の記録です。さらに、授業を学ぶ上で、積極的に発言することの重要性を改めて感じました。英語で授業を受けている以上、どうしても聞き取った内容と自分の知識だけでは十分に理解することができないことがあります。しかし、授業はそんな私を置いてどんどん先に進んでしまいます。そんなときは、発言すること、誰かに助けを求めて疑問をきちんと解決することが大切であると実感しました。こういった環境の中で自分の主張を発表すること、助けを積極的に求めることなどの力が身についたと思います。また、West East Collaborationの授業では、私が当初、留学の目的としていた外からの日本を学ぶという経験ができました。取り扱った題材の多くは日本で製作されたものや、日本の文化や考え方を取り入れた外国の作品で、作品を見終わるたびに、あるテーマについてみんなで話あいました。やはり、日本人とは違った考えを持った人からの意見は私にとって興味深く、日本という国を見つめなおす良い機会となりました。

授業外の活動でも多くのことを経験し、学ぶことができました。強く印象に残っているも

のとしては、日本語授業でのサポートと高知から短期留学生が来た時に開かれたダンスパーティーです。私は一年を通して日本語授業のサポートを行いました。この授業では日本の言葉や文化に興味のある学生たちが集まっていたため、それらの話題を通して様々なことを共有することでたくさんの友達ができました。もともと日本語教師を目指していた私にとって、この授業は大変貴重なもので毎回多くの発見がありました。例えば、間違えやすい文法や、発音しにくい音などは実際に彼らの授業に参加することで知ることができました。また、節分や、ひな祭り、お花見などの期間に合わせて様々なイベントを日本語授業を通して開催しました。私はこれらのイベントで、改めて日本の伝統的な行事の意味やルーツを学ぶことができました。またこのような日本のイベントを他国の人々と共有できるという喜びを感じ、私自身もっともっと日本を広めることができる活動、日本の伝統文化を深く追求する活動を行いたいと考えるようになりました。日本語授業を通して、私は彼らとともに成長し、多くのことに気が付かされと思います。

　また、高知県立大学の学生が短期留学として、エルムズ大学を訪れた際、高知県の伝統的な踊り、よさこい踊りを広めようということで、ダンスパーティーが行われました。私は、このダンスパーティーで、1 人でよさこい踊りの指導をするという大変重要な役を任されました。よさこい踊りの経験があったとはいえ、私は踊りを指導したことなどなく、またそれを英語で教えるということに大変不安に感じていました。なぜなら、振り付け自体が複雑で難しい上、私は多くの人の前で話すことが大変苦手だったからです。しかし、任された以上はしっかり自分の役目を果たしたいと考え、準備を念入りに行いました。まず、今までによさこい踊りを見たことも踊ったこともない学生にも、踊りやすく、楽しめるような振り付けを考えなおしました。さらに、英語ではどのように一つ一つの振り付けや動きを説明するのかを、友達に教えてもらいながら、一通りの踊りを完成させました。本番当日、自分のつたない説明でみんなによさこい踊りの良さを知ってもらえるのだろうかと不安に駆られ、とても緊張していました。しかし実際に踊りを教え始めると、最初は、苦戦しているように見えた人も、積極的にダンスを覚えようとしてくれており、非常に嬉しく思いました。最後に列を組んで一通り踊ったときは、皆な鳴子を鳴らしながら、楽しそうに踊っている様子でした。そんな彼らの姿を見て、よさこい踊りは世界共通で楽しんでもらえる素晴らしい日本の

伝統であることを改めて学んだとともに、よさこい踊りの指導役を引き受けてよかったと心から感じました。

　このように、エルムズ大学で過ごした日々は、一日一日が大変貴重で、思い出深いものとなりました。全く理解できなかった英語も、日を追うごとに聞き取れるようになったり、会話に入れるようになったりとアメリカで生活を始めた当初と比べると成長を大きく感じることができました。さらに、いろんな国から学生が集まるエルムズ大学では、プエルトリコやフランス、台湾、ポーランド、ハイチ、タンザニアなど多く国の人と知り合うことができ、かれらの国について多くの話を聞くことができました。これらは、留学しないと経験できなかったことだと思います。留学期間のなかで何度も英語を理解できない不安と焦りを感じ、うまく自分の言いたいことが表現できず挫折や、失敗を味わいました。しかし、同時に上記のような出会いや思い出、出来事は一生消えない私の知恵となり、経験となるでしょう。これら留学で得たものを今度は自分が発信することで、今後の生活、自分の夢のために生かしていきたいと考えています。最後に、留学をするにあたってお世話になった、県立大学の先生方、エルムズ大学の先生方、友達、両親への感謝の気持ちを忘れないよう、さらに成長し続けていきたいと思います。